

# 京都外国語大学 学位記授与式 学長式辞

平成24年3月20日 森田記念講堂

卒業生ならびに保護者の皆さま、森田嘉一理事長・総長、ご来賓の各位、このよき日にお集まりくださいました皆さま方、本日はご卒業おめでとうございます。

京都外国語大学の教職員を代表いたしまして、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

4年間に及ぶ本学での厳しい試練を乗り越え、本日、めでたく卒業の日を迎えられました新卒業生諸君にお祝いの言葉を贈らせていただけますことを大変うれしく光栄に思っております。また、保護者の皆さまにおかれましては、今日の日を迎えられますまでの日々の中、数々のご苦勞もおありだったと存じますが、愛情いっぱい手塩にかけて育ててこられましたご子息・ご息女が、このように立派に成長され、幅広い教養とすぐれた技能を身につけ、責任ある市民として社会の仲間入りをされるのをご覧になれますと、喜びもひとしおかと存じます。その保護者の皆さまにお祝いの言葉を贈らせていただけますことも、私にとりましてこの上ない喜びでございます。

さて、本日、卒業生諸君は教室の外に広がる実世界へと今まさに飛び立とうとしておられます。諸君の心は希望に満ち、諸君の目は将来への期待と希望で輝き、私には自信に溢れんばかりの諸君の音が聞こえてくるように思います。

本学園は、今年で創立65周年を迎えます。「言語を通して世界の平和を」という本学の建学の精神を私たちすべてが共有し、それに誇りを抱いております。そして私たちはこの65年間、世界の平和に貢献すべく、この崇高なる理想を实践してまいりました。

しかしながら、今日の世界状況を目にしますとき、真の世界平和、永続的な世界平和がこんなにももろく、その実現がいかに難しいものであるかを私たちは思い知らされております。そして、私たちの夢が実現するのは、まだ遠い先のことのように思われます。

卒業生諸君、それに会場の皆さま！私たちは、私たちの住むこの世界を安全に、そして安心して暮らせる世界にするために、努力を重ねてまいりました。一体、私たちのどこが間違っていたのでしょうか。その答えは、私たち人間の有言不実行、あるいは言行不一致という悪い癖、つまり、私たち人間が、人類という一つの大きな家族の一員であることを、口では唱えますが、いざそれを実行に移すとなりますと、私たちには賢明さも勇気も欠けているように私には思われるのです。

しかしながら現在、幸いなことに、私たちは、元氣と希望を与えてくれる「英知と勇氣」の予兆とも呼ぶべき学生諸君の活動を本学のキャンパスで目にすることができます。私は、この機会をお借りして、本学の建学の精神を实践している学生グループの素晴らしい課外活動を紹介したいと思います。紹介する三つの学生グループは、本学の多くの学生諸君が展開している「世界の平和プロジェクト」という名のグループ活動を代表するものであります。その一つが京都外大ハビタットであり、もう一つは京都外大 Table for Two であり、三つ目は京都外大 Peer Support Community (PSC 「ボランティア学生による学生支援クラブ」) です。

最初に、京都外大ハビタットの学生諸君は、世界中に広がるホームレスの問題ならびに劣悪な住居問題を解決するために活動しております。年に二度海外に出向き、学生諸君は発展途上国の人々が手の届く範囲の予算で何とか住める家屋を建てての手伝っております。

次に、京都外大 Table for Two の学生諸君は、貧しいために栄養不足に苦しんでいる子供たちを

助けるために募金活動を行っております。本学の学食であるリブレで昼食をとる際に指定のメニューを注文しますと、注文されたそのメニュー一皿につき20円が十分な食事も与えられずお腹をすかしている発展途上国の子供たちの給食費に充てられることになっております。

第三番目の事例は、京都外大Peer Support Communityです。PSCの学生諸君は、勉学のことから学生生活全般にわたる様々な問題について悩み、相談を必要としている学生仲間の相談に乗ったり、アドバイスを与えたりして、自分たちの学生仲間に助けの手を差し伸べています。

これらの学生諸君は、昨年の中日本大震災の折には、京都外大の他の学生たちと一緒に「東北を忘れるな！プロジェクト」に参加し、支援の手を差し伸べました。

正直に申しまして、私は、本学の建学の精神を実践している学生諸君を目の当たりにし、これら学生諸君の活動に心を強く動かされました。私は、「世界の平和プロジェクト」の学生諸君の言動は私たちすべてからの尊敬と賞嘆に値するものと思っております。

皆さんの中には、今日、私たちが直面している環境破壊や地球温暖化のような世界的危機の規模とその深刻さに比べれば、これら学生諸君の活動は特段取り立てるほど強い印象や影響を与えるものではないと考える方もいらっしゃるかも知れません。

しかしながら、これらの学生諸君は、自分自身の利益と、より広い範囲のコミュニティ—それが地域レベルであれ、あるいは地球規模であれ—の利益との間のバランスのとり方を「世界の平和プロジェクト」の活動を通して、毎日、学んでいると考えております。そして、これらの学生諸君は、私たちの住むこの世界を、すべての人にとってより公正で、より平和的で、より住みやすい世界にするために、私たちがいかに生きるべきかを実際の行動でもって私たちに示していると思います。

私たちみんなが京都外国語大学創立者の子供たちであります。「言語を通して世界の平和を」という本学の建学の精神は、私たちの希望や意思を最も雄弁に表しております。その目指すところは、世界の人々が手を取り合い仲良くする世界を実現する点にあり、そうすることで、私たちは生きることの意味を実感することができるのです。確かに、私たちは、勉強や仕事に、また趣味や自己利益の追求のなかに生きる目的を見出そうとします。しかし、何にもまして重要なことは、自分の利己的な利益は、ひとまず横に置き、他の人たちが何を望んでいるのか、他の人たちの足しになるにはどうすればよいのかを、まず考えたうえで、自分自身の勉強や仕事、趣味などに生きる目的を見つけていくことではないかと思えます。

私は、これらの「世界の平和プロジェクト」によって本学のキャンパスの土の中にまかれた種が、後に続く学生たちに受け継がれ、日一日と成長し、やがて花を咲かせ、大きく実を結ぶ日が来ることを楽しみにしております。

本学の掲げる理想の旗が空高くはためき続ける限り、また私たちが諸君のような立派な学生を育て続ける限り、私は、京都外国語大学は発展し続けるものと考えております。

私は、京都外国語大学を卒業される卒業生諸君を心から誇りに思っております。本日、この素晴らしい門出の日を迎えられた諸君、「ご卒業本当におめでとうございます。」諸君の一人一人がこれから歩んでいかれますキャリア、またこれから築いていかれますご家庭に、喜びと愛と平和が訪れますことを心からお祈りいたします。ご清聴ありがとうございます。

学長 松田 武